

救護第9班 3月20日～3月30日 管理要員・奥 達成



私の派遣は鳴瀬地区に重点を置く時期で、JA鳴瀬には毎日特殊医療救護車両(ディザスター)をもって行きましたが、土日に電気の供給ができないと言われ、隣の鳴瀬庁舎に相談に行きました。それがきっかけで、庁舎に救護所を設置することになりました。



それまではディザスターを現地で展開して診療を行っていたので、救護所となるテントを2張り常設しておくことは、業務開始前の準備が要らないため、診療を待ってらっしゃる方たちのためにも、よかったなど。テントなどには熊本赤十字病院と明記してありますが、救護所などでスタッフは結構熊本弁が出ていて、受診に来られた方が聞き返すこともありましたね。そして「熊本から来てくれて、ありがとう」と言われたときには、救護に来てよかったと思いました。

視察に行った牡鹿半島では、ほとんど高台にあった家しか残っておらず、ひどい状況で、地域の人たちは高台の公民館や個人の住宅に避難していました。私はインドネシアの津波被害を実際に現地で経験していましたので、落ち着いて対応することができましたが、初めての人にはショックな光景だと思います。

地震は毎日のようにありましたが、私たちはテント泊だったので怖くはありませんでしたが、寒さは厳しく、毛布4～5枚で車中で1泊したときは眠れませんでした。